

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2年 2月 20日 更新

事務事業名		生活支援体制整備事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	福祉の健康			所属部	健康福祉部	課長名	大山 由紀美
	施策	7	高齢者の自立と支援体制の充実			所属課	高齢者支援課	担当者名	田野 恵子
	施策の柱	28	高齢者の生活支援の充実			所属班	包括支援センター班	(内線)	1626
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	根拠法令	合志市生活支援体制整備事業実施要綱		
		11	3	8	11651				
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 30年度で終了 <input type="checkbox"/> 30年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 28 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	<p>【経緯】</p> <p>・平成27年度から移行が開始された、介護予防・日常生活支援総合事業(平成29年度までが移行期間)における、包括的支援事業の社会保障充実分の一つとして、生活支援サービスの体制整備が加えられた。</p> <p>【内容】</p> <p>・生活支援等サービスの体制整備にあたっては、市町村が中心となっており、元気な高齢者をはじめ、住民が担い手として参加する住民主体の活動や、NPO、社会福祉法人、社会福祉協議会、地縁組織、協同組合、民間企業、シルバー人材センターなどの多様な主体による多様なサービスの提供体制を構築し、高齢者を支える地域の支え合いの体制づくりを推進していく必要がある。そのため、生活支援体制整備事業を活用した、「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」や「協議体」の設置等を通じて、互助を基本とした生活支援等サービスを創出していくよう取組む事業である。</p>
【業務の流れ】	生活支援コーディネーターの選出(市社会福祉協議会より出向)、生活支援協議体の組織を運営し会議の開催、高齢者の通いの場等の地域資源の掘り起こし、地域高齢者のニーズ把握、ニーズとサービスのマッチングを行う。
【主な予算費目】	職員手当等・報償費・旅費・役務費・委託料・負担金
【意見や要望】	高齢者が歩いて通える場所に、住民主体のボランティア等様々な主体による通いの場を創出することが急務である。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO)	生活支援コーディネーターを1人配置しており、地域づくり・課題等を話し合う場として様々な団体が参加する「生活支援協議体」を4回、協議体分科会を4回開催した。地域住民に参加してもらい、高齢者の通いの場の主催団体による講話・パネルディスカッションを行う「元気フォーラム」を開催した。高齢者の通いの場マップを作成し、市民に周知している。	31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回	予算の主な増減の理由
→ ア: 生活支援協議体開催回数		生活支援体制整備事業委託による委託料の増
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	地域づくり・課題等を話し合う場として様々な団体が参加する「生活支援協議体」	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位) 人
		→ ア: 生活支援協議体参加延べ人数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	生活支援協議体に出来るだけ多くの、様々な団体が参加するようになる。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位) 項目
		→ ア: 課題として検討した項目数
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
生活支援協議体に出来るだけ多くの、様々な団体が参加することで、地域課題等が活発に話し合われるようになり、地域課題解決、また住民主体の通いの場の創出等につながる。		全体計画
		~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	28年度実績(決算)	29年度実績(決算)	30年度目標(当初予算)	30年度実績(決算)	31年度目標(当初予算)	2年度予定	3年度見込	4年度見込	
① 活動指標	ア	回	4	8	5	8	5	5	5	5	
	イ										
② 対象指標	ア	人	76	95	80	90	80	80	80	80	
	イ										
③ 成果指標	ア	項目	16	10	5	2	2	2	2	2	
	イ										
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円	1,871	2,353	2,203	2,600	2,677	2,677	2,677	
		都道府県支出金	千円	935	1,177	1,102	1,299	1,338	1,338	1,338	
		地方債	千円								
		その他	千円	1,056	1,326	1,316	1,553	1,600	1,600	1,600	
		繰入金	千円	935	1,177	1,102	1,299	1,338	1,338	1,338	
		一般財源	千円								
		(A) 事業費計	千円	4,797	6,033	5,723	6,751	6,953	6,953	6,953	
		(A)のうち指定経費	千円	4,797	4,912	4,241	5,502	44	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	159	155	35	44	0	0	
		正規職員従事人数	人	4	5	4	4	4	4	4	
	延べ業務時間	時間	450	600	450	530	450	450	450		
	(B) 人件費計	千円	0	2,373	1,792	2,089	1,792	1,792	1,792		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,797	8,406	7,515	8,840	8,745	8,745	8,745		

事務事業名	生活支援体制整備事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は30年度の事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 協議体開催により、抽出した課題の中から情報を共有し、解決に向けた議論ができた。
	②31年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 協議体開催を継続し、課題に対する解決方法に向けた協議を実施していく。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 様々な課題から、事業を構築していく必要があるため。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 国の指針により設置しているため、事業の統廃合が難しい。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 生活支援コーディネーター派遣に関する出向負担金がほとんどであり、削減の余地がない。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限で行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 法の趣旨に基づく事業であり、適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 介護保険法に基づき実施しているため適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

生活支援協議体を開催し、各種団体の代表の参加のもと様々な地域の課題を解決するための議論ができた。また、高齢者の通いの場実態調査により「合志市通いの場」マップを作成し随時更新しながら、市民に周知ができた。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						